

# 花おりおり

2025. 04. 22

鈴 蘭	
	<p>まさに”鈴”そのもの。 名前もそこから。 ただし蘭科ではなく、ゆり科。開花時期は、4/15～ 5/15頃。有毒だが、根・茎は強心・利尿剤として用いられた。俳句の季語は夏。別名：「君影草」「谷間の姫百合」 原産地：ヨーロッパ、東アジア、北アジア</p>
口紅シラン	
	<p>日本(本州・四国・九州・沖縄)、台湾、中国などに分布するランの仲間紫蘭のうちリップの先が赤紫色に染まる種類が口紅紫蘭。通常花や白花の種類と違って繁殖力が少し弱めな気がする。花 期：4～5月、高 さ：30～70 cm 多年草</p>
小手毬 (こでまり)	
	<p>小さな花が丸く集まり手毬のように咲くことから、「小さな手毬」で「小手毬」。枝は弓状に垂れ下がる、草丈／樹高1～1.5m。生け花の材料や茶花として利用される。 4月2日の誕生花。花言葉は「友情」。原産地：中国南東部 開花期：4月中旬～5月中旬 別名：スズカケ・テマリバナ</p>

<p>空木 (卵の花)</p>	
	<p>雪の下 (ゆきのした) 科 開花時期は、5/20 ~ 6/5 頃。髓莖や根の中心にある部分) が空洞になっているので、「空ろ木 (うつろぎ)」 → 「空木」になった。      別名：「卵の花」(うのはな) 卯月 (旧暦4月) に咲くことから。「うつぎの花」の略とも。「雪見草」(ゆきみぐさ) 見た目が雪のよう。      ♪卵の花匂う垣根にホトトギス・・・ 懐かしい「夏が来ぬ」を口ずさむ、一気に夏が到来。</p>
<p>都忘れ (野春菊 (のしゅんぎく)、東菊 (あずまぎく))</p>	
	<p>菊に似た、紫色の可憐な花。日本原産。      鎌倉時代の西暦 1221 年、承久の乱に敗れて佐渡へ遠流となった順徳帝が、草でぼうぼうになった佐渡の庭に一茎の野菊が紫色に咲いているのを見つけ、「紫といえば京の都を代表する美しい色だったが、私はすべてをあきらめている。花よ、いつまでも私のそばで咲いていておくれ。都のことが忘れられるかもしれない。お前の名を今日から都忘れと呼ぶことにしよう」と、傷心のなぐさめにした、という説話がある。花の名はここからきたようだ。また、京を去るときにこの花を目にとめて都を忘れることにしよう」といったことからこの名前になったとの説もある。</p>
<p>紫蘭 (シラン)</p>	
	<p>紫色の蘭であることから、この名になった。ランと聞くと栽培が面倒と思われがちだが、丈夫で育てやすいランの入門品です。春、地下に連ねた扁平な地下球 (偽球茎) からササのような葉茎を伸ばし、先端に赤紫色の華麗な花を咲かせる、晩秋には葉を落とし休眠する、結実するとタネを飛ばし、気づかぬうちに庭のあちらこちらから小苗が発芽することあり。別名：紅蘭</p>

釣鐘水仙



葉っぱは水仙に似て、花は釣鐘状。ゆり科ツルボ属の多年草4～5月頃に開花。スイセン(水仙)となっているが、葉の形が似ているからでスイセン(水仙)の仲間ではない。ちなみにスイセン(水仙)はヒガンバナ科である。

白雪芥子 (シラユキゲシ)



春、4月頃に開花。白い4弁花。葉っぱのふちは波形。耐寒性多年草で中国東部の山地に自生している耐寒性多年草で花茎5cmほどの花の中心部に黄色の雄しべをつけている姿はケシを想起させる。(ケシ科の植物)。寒さだけでなく暑さにも強くて、いったん株が落ち着くと、親株から離れた場所にも芽を出してどんどん広がっていき繁殖力が強く丈夫。別名：「スノーポピー」原産地：中国東部地方

ガクアジサイ (額紫陽花)



アジサイ科に属する日本固有の落葉低木。太平洋沿いの限られた暖地（伊豆半島、三浦半島、房総半島、足摺岬、伊豆諸島、硫黄列島、和歌山県の神島）に分布し、海岸付近の崖地などで稀に自生が見られる。ガクアジサイの開花は5～7月で、開花期間はアジサイより長い。花の色は藍色が基本だが、ピンク、白、紫のバリエーションがあり、初夏に咲く清楚な花が美しい。原産地：日本

ヒメウツギ



雪の下（ゆきのした）科

アジサイ科ウツギ属の落葉低木で空木によく似ていて、花のサイズが少し小さいところから姫空木。花は白花で、円錐状に小さな花がたくさん咲く。原産地：日本（関東以西の本州、四国、九州の山地）

山 吹



薔薇（ばら）科 開花時期は4/1～4/末頃。山の中に生え、花の色が薔（ふき）に似ていて金色で美しいことからこの名前に、また、しなやかな枝が風にゆれる様子から「山振」の字があてられ、じきに「山吹」になったとも。”やまぶきいろ”と呼ばれる鮮やかな黄色。白い花もある

ムスカリ



開花時期は、3/5～4/末頃。地中海沿岸または南西アジア原産。ヒヤシンスに少し似ている。鮮やかな青紫色、白色の品種もあるという。別名：グレープヒヤシンス

シンビジュウム	
	<p>蘭科。学名：Cymbidium：</p> <p>花色豊富。春に咲くものが多いが、四季咲きもある。花言葉は「野心、大志、誠実な愛情、熱心さ」原産地：アジア、オセアニア（現在の交配種のもとになった原種は主にインド、ネパール、ミャンマー、中国、タイ）開花期：12月～4月（3月～4月がピーク）</p>
ホトケノザ	
	<p>シソ科オドリコソウ属の冬生一年生雑草。開花期は3～6月頃ですが、秋にも咲く場合もある。高さは10～30cmほどで、庭の至る所に生えてくる。仏様が座る台座に葉の形が似ていることから、ホトケノザと名づけられたと云う。「春の七草」のホトケノザは、キク科の「コオニタビラコ（小鬼田平子）」を指し、雑草のホトケノザは食用にできないので要注意。シソ科オドリコソウ属の冬生一年生雑草。開花期は3～6月頃だが、秋にも咲く場合もある。高さは10～30cmほどで、庭の至る所に生えてくる。仏様が座る台座に葉の形が似ていることから、ホトケノザと名づけられたと云う。「春の七草」のホトケノザは、キク科の「コオニタビラコ（小鬼田平子）」を指し、雑草のホトケノザは食用にできないので要注意。</p>
董（すみれ）	



開花時期は、3/10～5/10頃。  
花の形が大工道具の”墨入れ”に似ていることから「すみ  
いれ」の呼びがしだいに「すみれ」になったと云う。